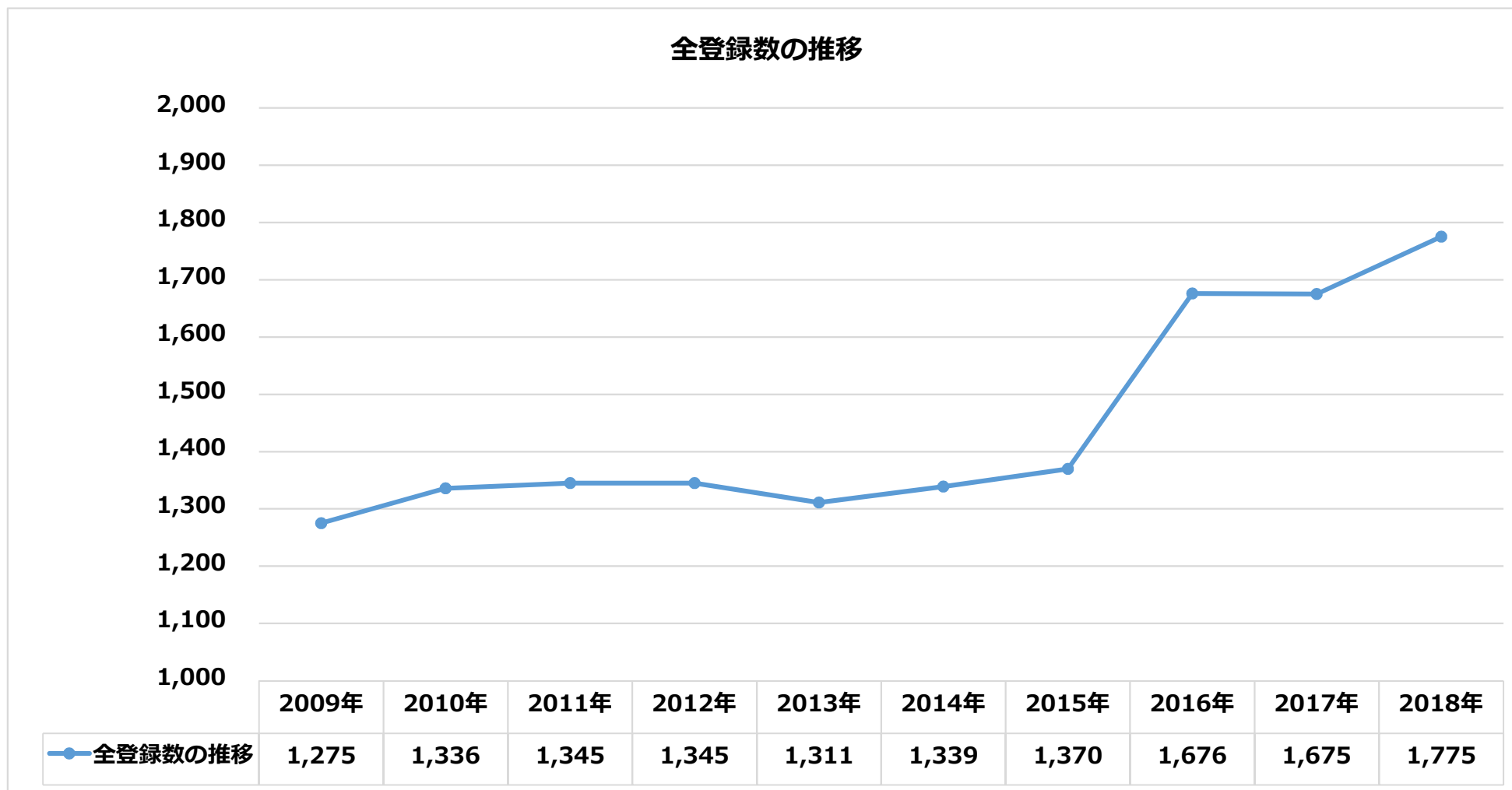


全登録数の推移



全登録数とは、当院をはじめて受診した「がん」の件数です（セカンドオピニオン等含む）。

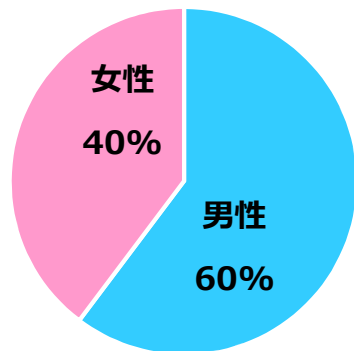
2016年は、4月に泌尿器科の通常診療を再開し、「前立腺がん」「膀胱がん」「腎・尿管がん」等の受け入れが可能となり、約200件の登録増、また、他の診療科においても診療体制の充実を図り、計300件の登録増となりました。

2017年は、「乳がん」の手術の診療制限はありましたが、「血液内科」の充実を図り、2016年と同数となりました。

2018年は、「乳がん」の手術の再開等により約100件の登録増となりました。

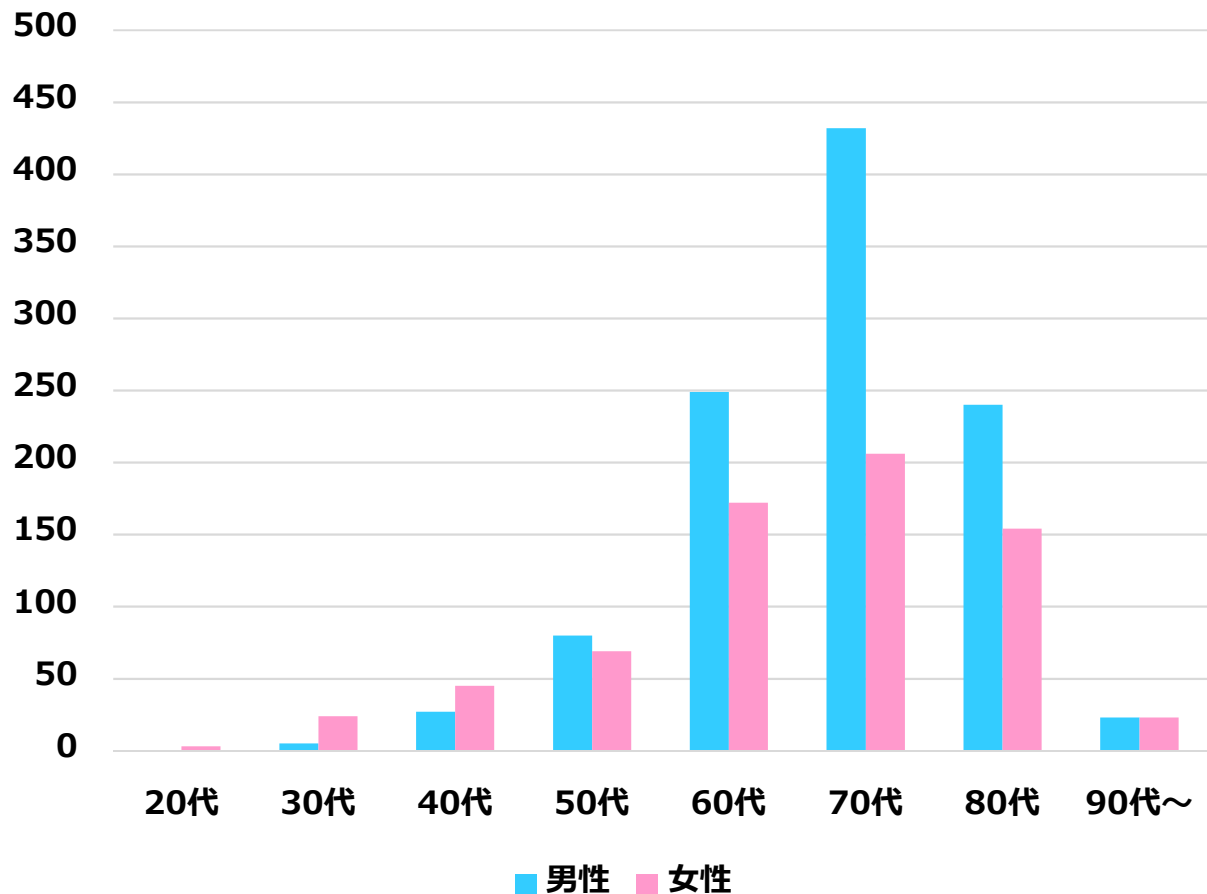
2018年症例 性別・年齢階級別 集計登録数

2018年症例 性別 登録割合



年度ごとの診療体制によって若干の変動はありますが、毎年ほぼ6対4で男性の登録数が多いです。

2018年症例 性別・年齢階級別 集計登録数

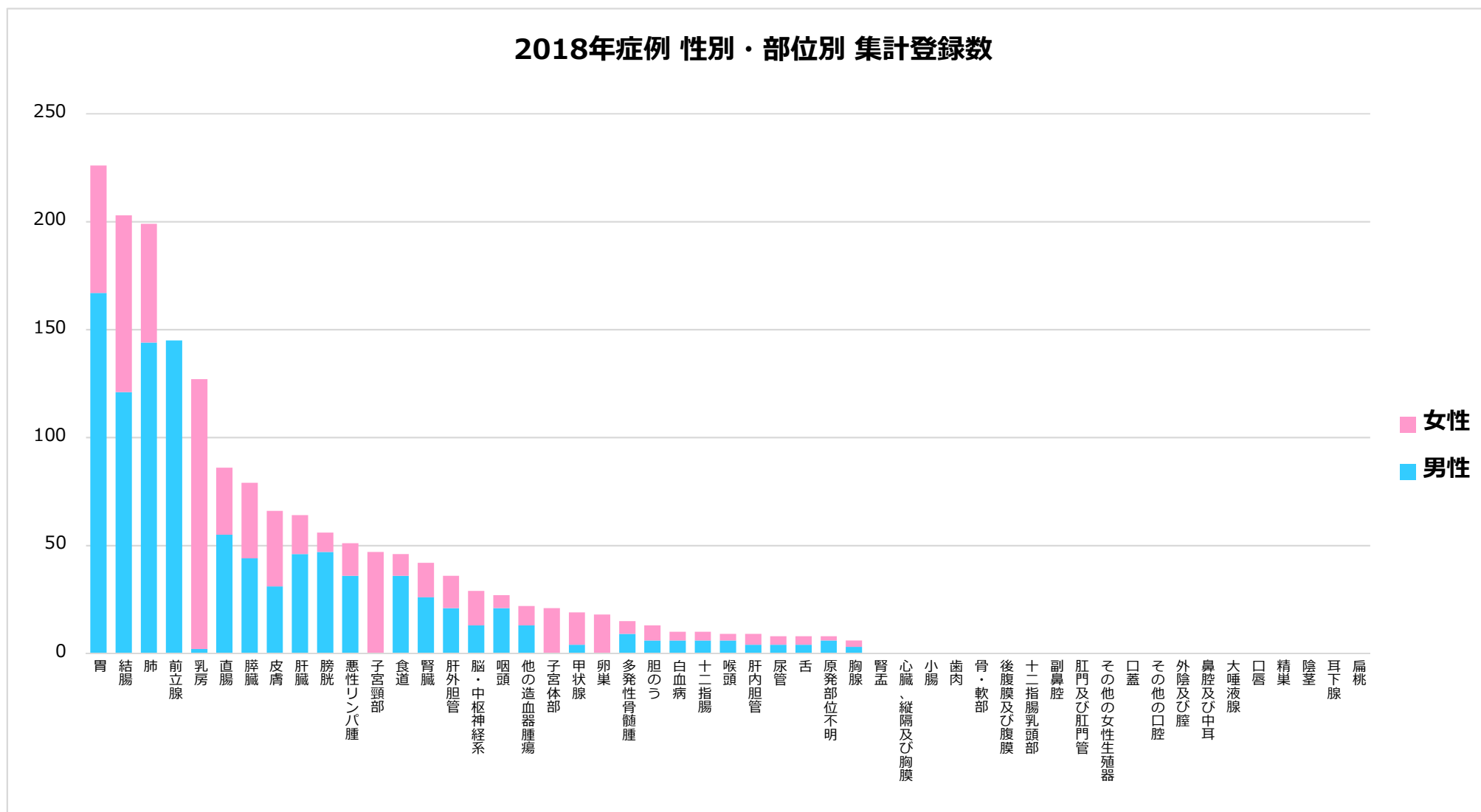


平均年齢は、全体で71.2歳、男性72.4歳、女性69.3歳です。

全体の集計登録数は男性が多いですが、若い年齢層では女性が男性を上回っています。がんの発症年齢は、がんの種類によっても大きく異なり、乳がんや子宮頸がんなど女性特有のがんは、比較的若いうちに発症することが多いです。

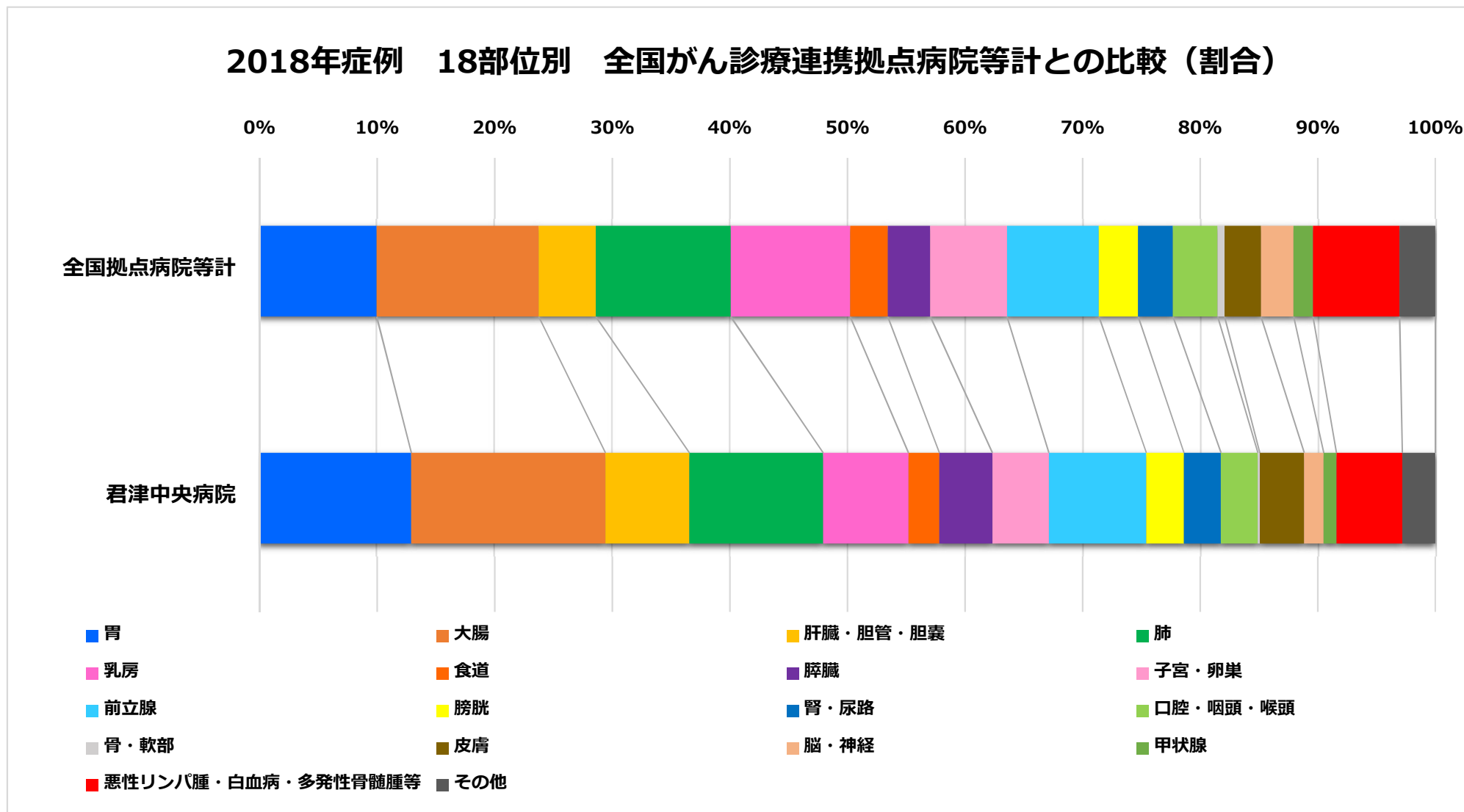
近年の高齢化によって、80歳以上の登録数が増加傾向にあります。

2018年症例 性別・部位別 集計登録数



上記のグラフは、当院の部位別の集計登録数を示したものです。がんがあらゆる部位に発生すること、また、当院が「地域がん診療連携拠点病院」として多くの部位のがんの診療を行っていることを知っていただくために、全国集計で公表されている部位よりもより詳細な分類で表示しています。なお、登録数の少ない部位は、個人が特定できないように、グラフの値を非表示にしています。

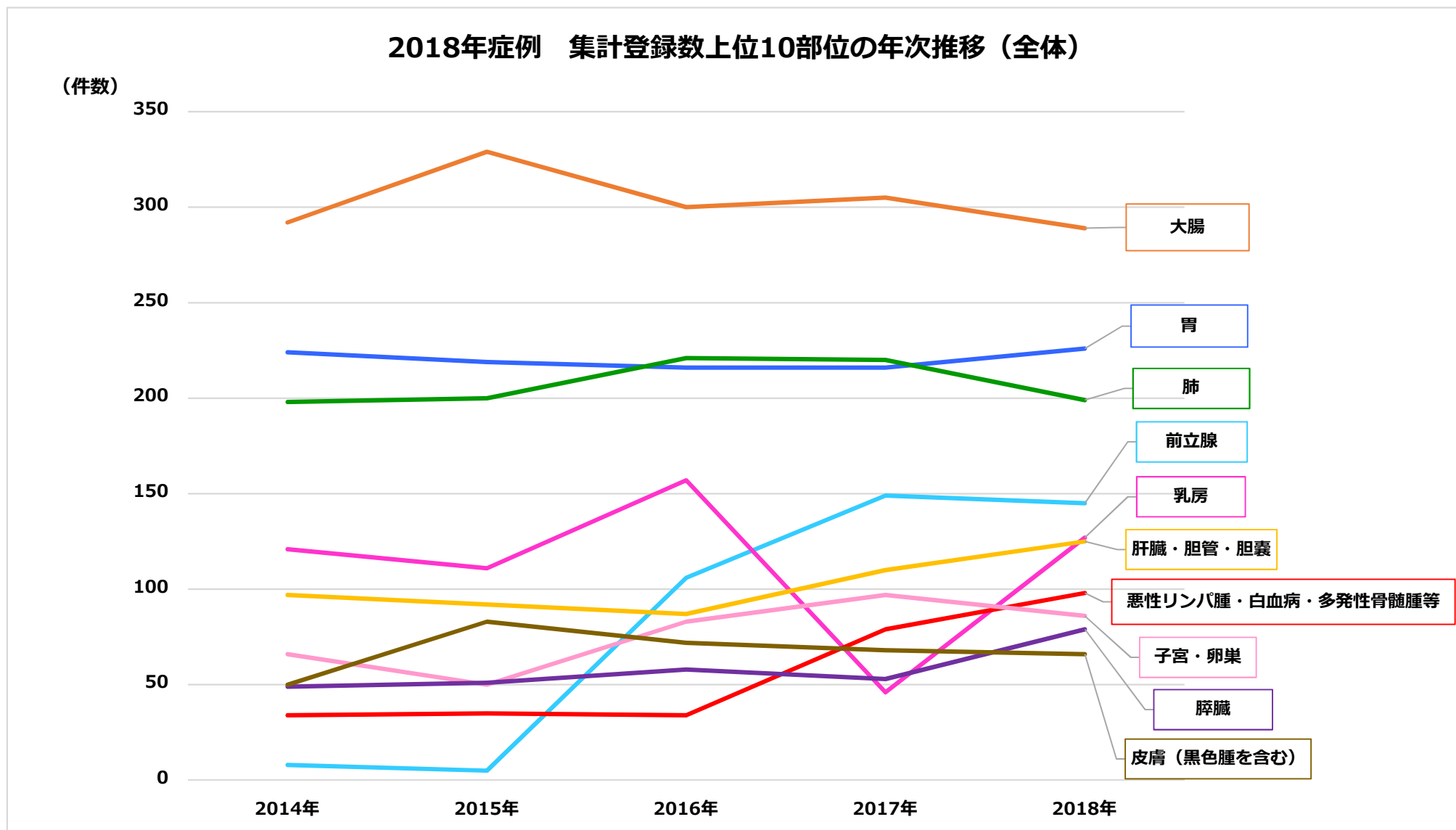
2018年症例 部位別 全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分け、当院と全国のがん診療連携拠点病院等計の登録割合を比較したものです。

当院の部位別の割合は、胃、大腸、肝臓系、脾臓が高く、乳房、子宮・卵巣が低いものの、全国拠点病院等計とほぼ同等であり、これは、当院が特定の部位に偏ることなく、「地域がん診療連携拠点病院」として罹患の割合に応じた診療体制を整えていることを示しています。

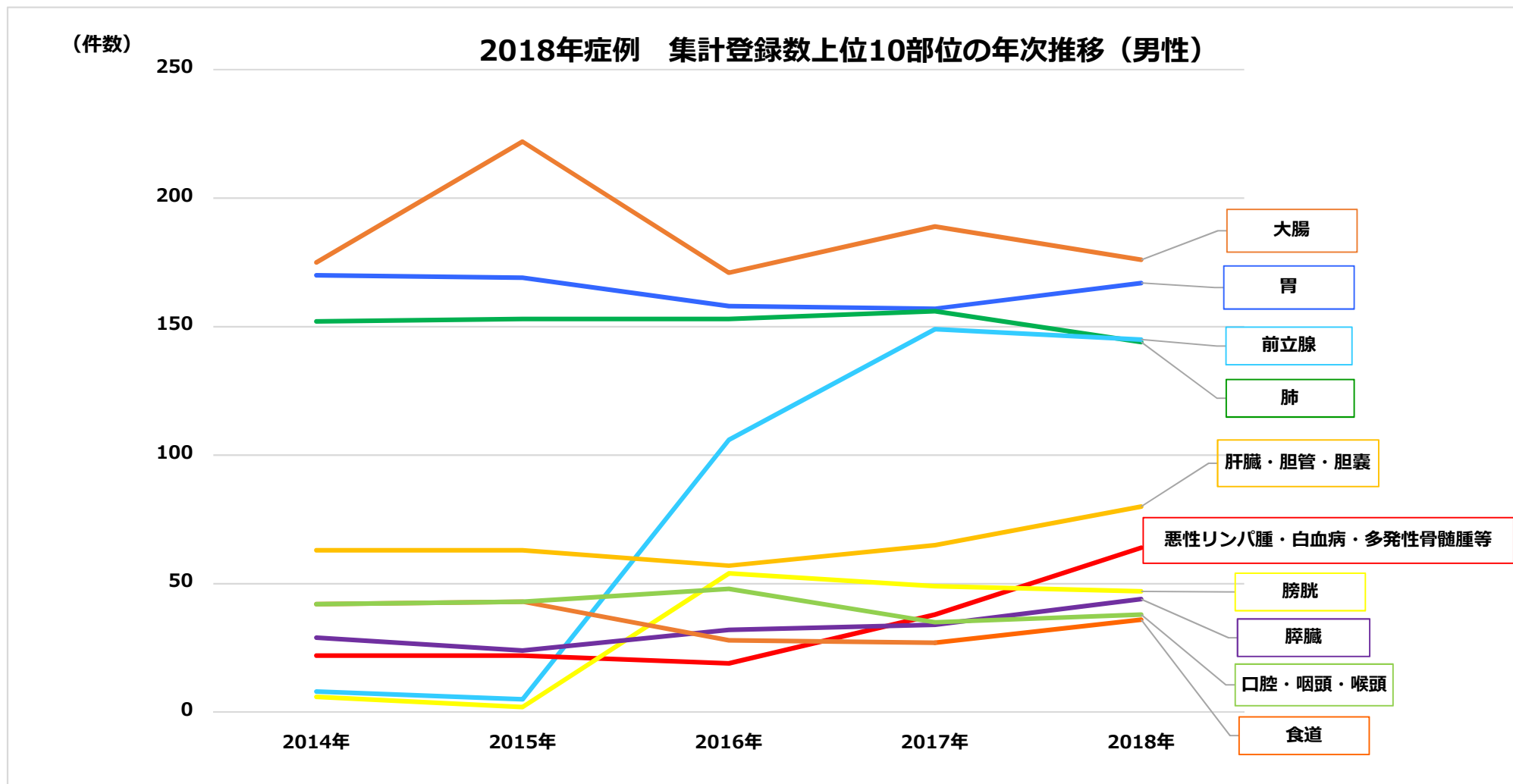
2018年症例 集計登録数上位10部位の年次推移（全体）



上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分けた場合の当院の集計登録数上位10部位の年次推移を示したものです。

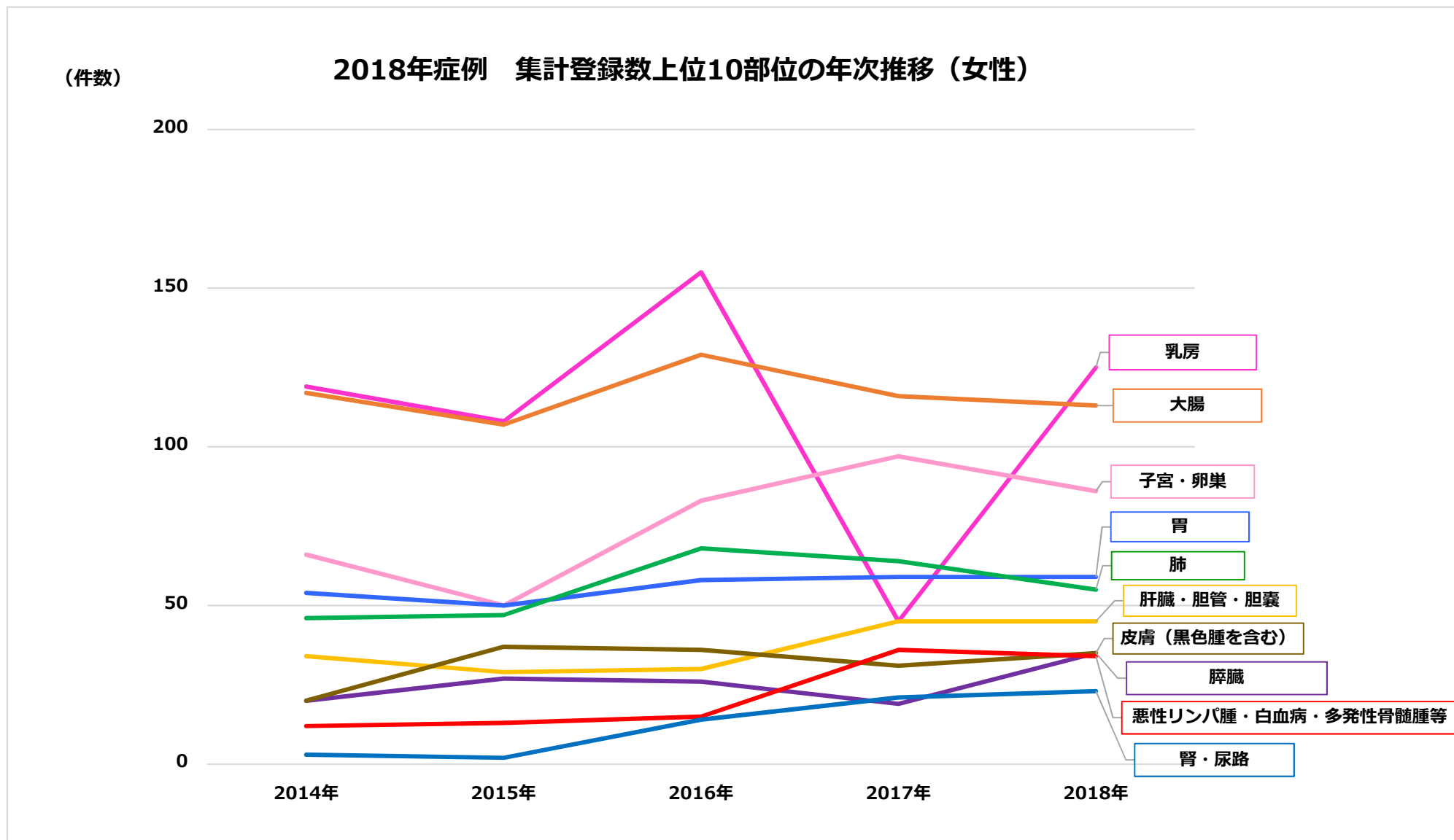
2016年に泌尿器科、2017年に血液内科の診療体制の充実を図り、前立腺と血液がんといわれる悪性リンパ腫・白血病・多発性骨髄腫等の集計登録数が増えています。

2018年症例 集計登録数上位10部位の年次推移（男性）



上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分けた場合の当院の男性集計登録数上位10部位の年次推移を示したものです。
 2017年全国がん登録集計結果によると、男性において罹患率が高いのは、大腸、胃、前立腺、肺、肝および胆管、の順です。
 当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、上位5部位のがんのみならず、全国的に罹患率の高いがんの診療体制を整えています。

2018年症例 集計登録数上位10部位の年次推移（女性）

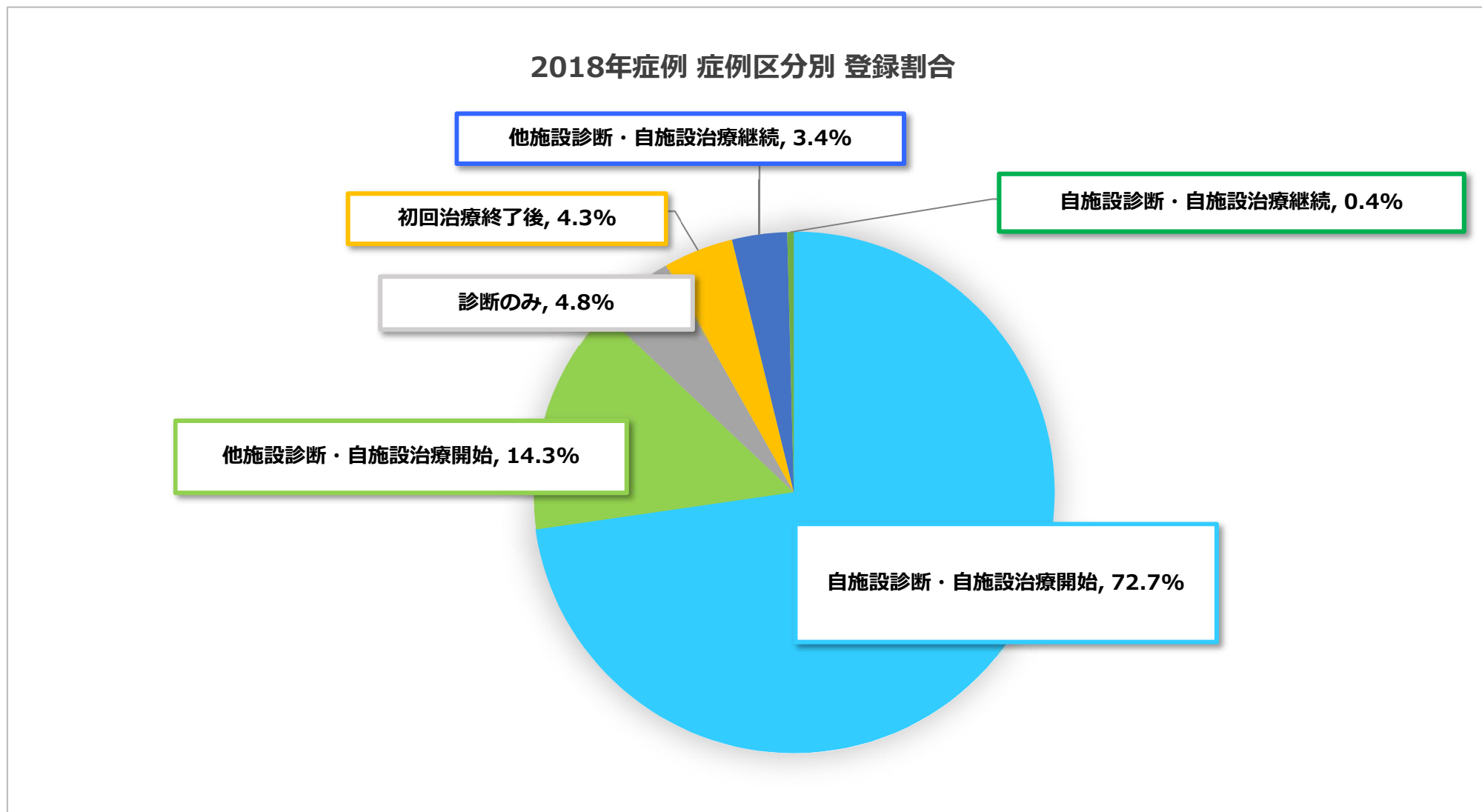


上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分けた場合の当院の女性集計登録数上位10部位の年次推移を示したものです。

2017年全国がん登録集計結果によると、女性において罹患率が高いのは、乳房、大腸、子宮、肺、胃の順です。

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、上位5部位のがんのみならず、全国的に罹患率の高いがんの診療体制を整えています。

2018年症例 症例区分別 登録割合

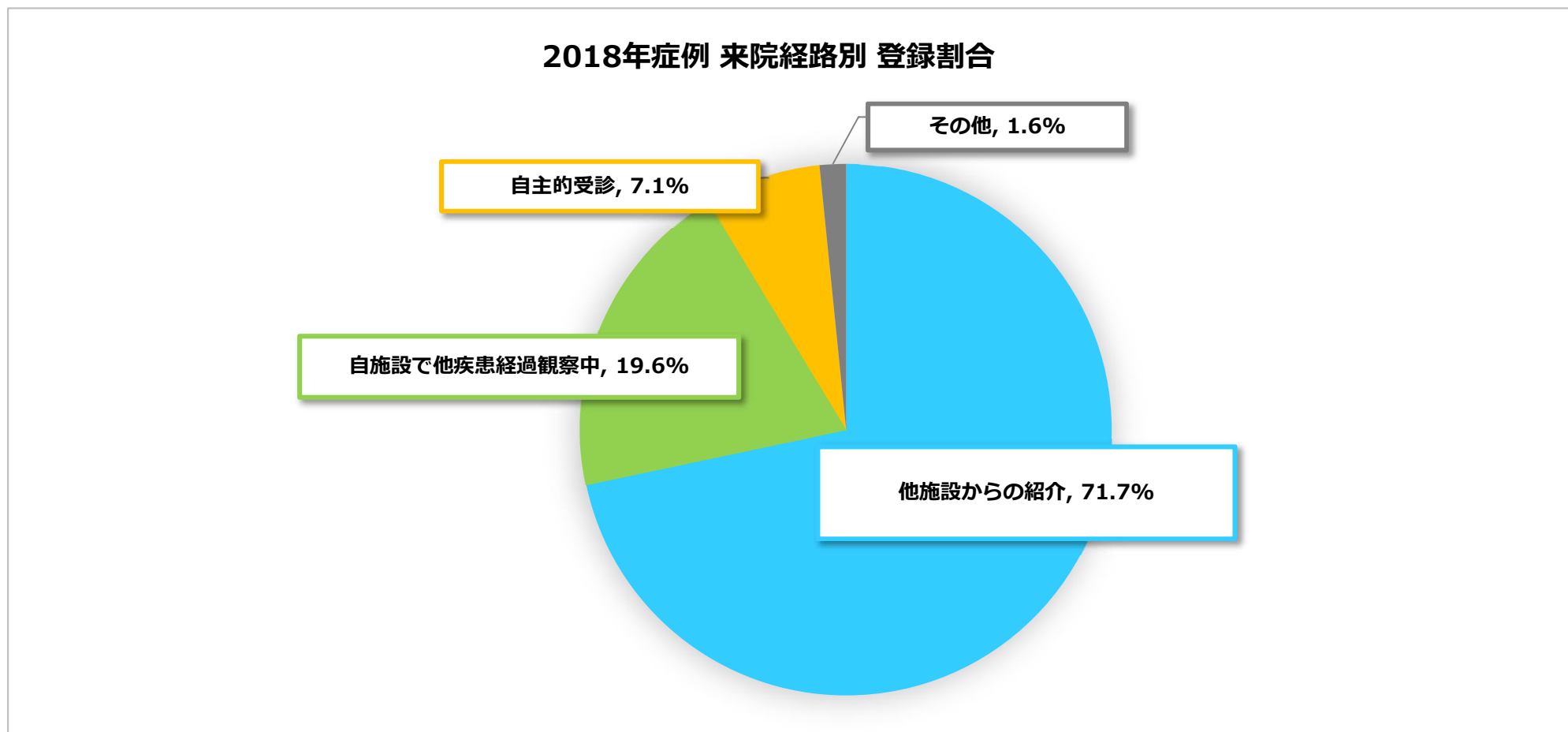


「症例区分」とは、がんの診断および初回の治療の過程で、当院がどのように関わったかを判断するための項目です。

当院は、初回治療（経過観察含む）を集計登録数の87%の症例に行っています。その中でも診断から治療まで継続して受診している症例が72.7%と多数を占めています。

診断のみの症例は4.8%、初回治療終了後に緩和医療等の目的で受診する症例が4.3%です。

2018年症例 来院経路別 登録割合



「来院経路」とは、患者さまがどのような経路によって当院を受診したのかを把握する項目です。

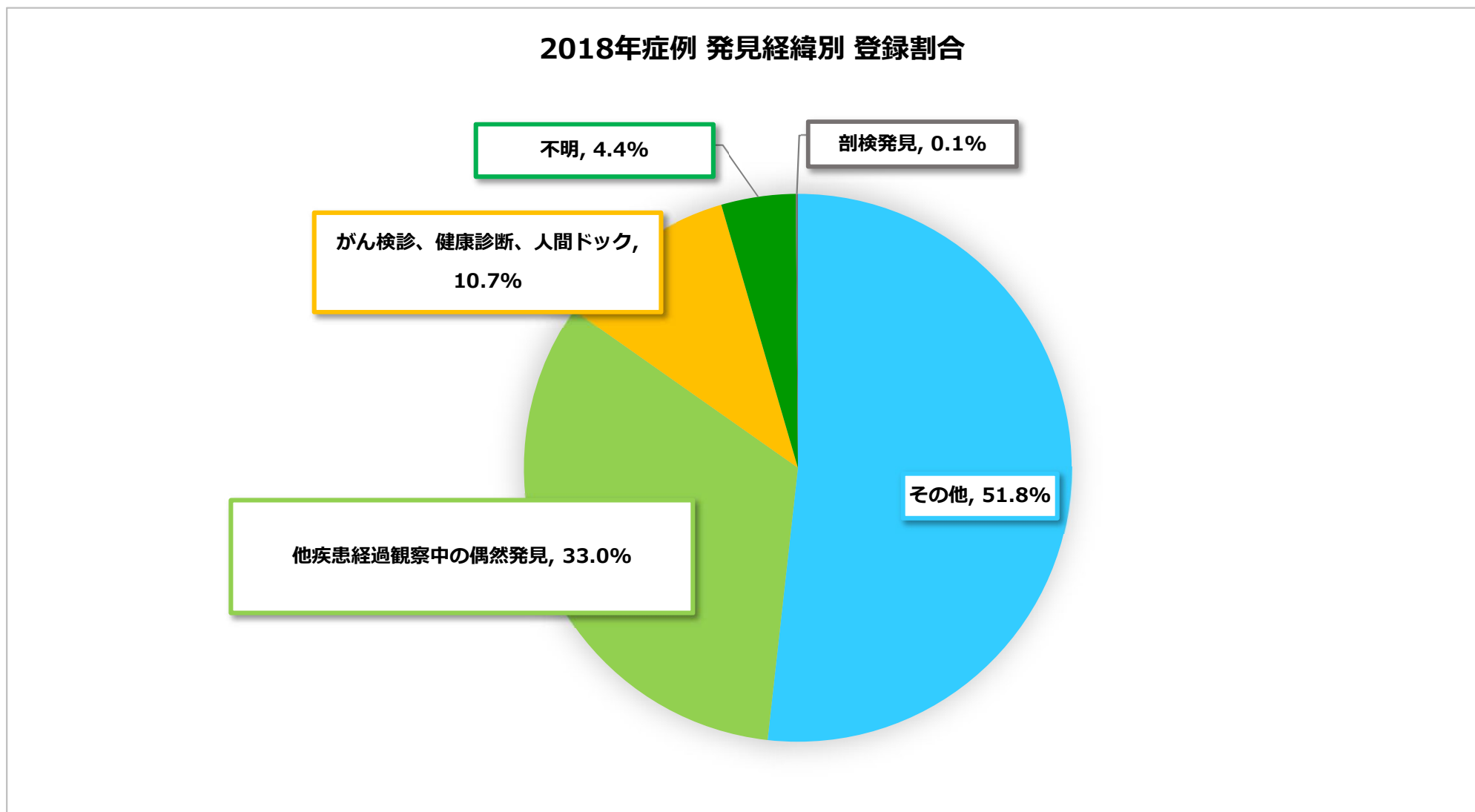
「他施設からの紹介」が全体の71.7%を占めており、「地域がん診療連携拠点病院」としてかかりつけ医や検診機関等から多くの患者さまの紹介をいただいています。

「自施設で他疾患経過観察中」とは、当院で他疾患の診断や治療中にがんが発見された症例です。がんの疑いがあり当院を受診し、精査の結果がんが否定され、当院でその後のフォローアップ中にがんが発見された症例も含まれます。

「自主的受診」とは、紹介状を持たずに自主的に当院を選択して受診した症例です。

「その他」は、救急車で搬送された症例を含みます。

2018年症例 発見経緯別 登録割合



「発見経緯」とは、当院を受診した患者さまのがんが診断される発端となった状況を把握する項目です。

「その他」は、自覚症状による受診を含み、約半数を占めます。

「がん検診、健康診断、人間ドック」等の自覚症状が出る前にがんが発見された症例は、10.7%です。